



おながわ 女川原発の 再稼働を止めよう!

震災で大ダメージ、 避難計画もおぼつかないのに再稼働？

11月11日、宮城県の村井知事は、女川町と石巻市にかけて立地する東北電力・女川原発2号機の再稼働に同意すると表明しました。

東日本大震災の時に女川原発を襲った津波は、原子炉建屋の地盤まであと80cmのところまで迫り、2号機は地下に浸水しました。

5回線あった外部電源の内1回線が生き残ったため、かろうじて福島第一原発のような重大事故をまぬがれたものの、原子炉建屋には、1,000ヶ所以上のひび割れが見つかりました。それほどダメージを受けたのです。

しかも福島第一原発と同じ「沸騰水型原発」。沸騰水型で再稼働した原発はまだありません。東北電力は、2022年度の再稼働を目指して安全対策工事を進める予定ですが、その費用は約3,400億円に上るといわれます。

住民の不安は、地震と津波で被害を受けた原発だ、と言うだけではありません。30^{km}圏内に住む約19万9千人の住民の避難計画が、おざなりだからです。女川原発は、牡鹿（おしか）半島の付け根近くにあり、半島の住民は、万が一の時には、原発近くの道路を通過して、内陸側に避難しなければなりません。しかし、昨年、台風の被害で女川町は一時孤立、道路網はぜい弱です。石巻市の住民の9割が避難先に着くには最長5日以上かかると、県も見込んでいます。地元は、国や県に避難道路の整備を求めています。予算の裏付も、まだありません。

県議会は 住民投票を求める11万人の声を無視

2018年、原発再稼働のことは住民自身で決めようと宮城県の住民が立ち上がり、住民投票条例を求める署名を、11万筆以上も集め、村井知事に提出しました。これは直接請求に必要な署名数の約3倍にあたります。ところが2019年3月、宮城県議会は、この条例案を否決してしまっただけです（2020年3月には野党会派が提出した住民投票条例案も否決）。

大きな原発事故が起きれば、取り返しのつかない被害を受け、避難しなければならなくなるのは、まわりに住む住民です。もちろん、女川町や石巻市に限られるわけではありません。知事や再稼働に賛成する議員だけで、被害を受ける何十万、何百万（あるいはそれ以上）の住民の声を直接聞く必要などない、と決めてしまっただけです。（裏面に続く）



2020/12/11

全造船関東地協労働組合・よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホムページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

女川原発、再稼働予定は2年先

11月時点で稼働している日本の原発は、九州電力の2基だけです。東日本では、日本原電が茨城県の東海第2原発を、東京電力が新潟県の柏崎刈羽原発6・7号機を再稼働させようとしています。周辺自治体の合意の問題や、福島事故・避難の検証作業などで、再稼働などできる状況ではありません。

女川原発が実際に再稼働を予定しているのは2022年度、2年先です。知事や立地している自治体の首長・議会のオーケーさえ取れたら、実際に被害を受ける、ぼう大な数の住民の意見を聞くこともなく再稼働という「住民無視」の流れを断ち切り、東海第2や柏崎刈羽の再稼働を止めることにつなげましょう。【組合員N】

東海第2原発、柏崎刈羽原発も再稼働させない!!

ちなみに、
西の方では、老朽原発再稼働の動き

11月25日福井県の高浜町議会は、稼働から40年を超える高浜原発1・2号機の再稼働に同意することを決議しました。同じく老朽原発のある美浜町でも同様の動きがあります。本来は廃炉にすべき老朽原発を再稼働させるなど危険きわまりない話。コロナ禍にまぎれるようにしてうごめく再稼働の動きは、許せません。



■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は、電力会社を元請とした4〜8次の下請会社で稼働しています。3・11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は、2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し、闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

私たちは、東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月11日に街頭宣伝活動を始めて9年半になりました。これからも何ができるのかを一緒に考えたいと思います。

「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！

